

「提案やプレゼンテーションを聞いて助言をしよう」

～話し手の意図を捉えながら聞き、
自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる～



B 1 「話し手の意図を捉えながら助言をする」の結果を分析したところ、相手の立場や状況に合わせながらどのように助言をしているかを捉えることに課題があることが分かりました。そこで、本授業アイデア例ではこの課題を解決するために、助言をする際のステップやポイントを明確にした2つの指導事例を構想しました。なお、本授業アイデア例は、第5学年以上を対象にしました。

授業アイデア例

事例1 提案を聞いて助言をする

■ 助言をする際は、次の3つのステップ（共感→質問→助言）を踏まえることが大切である。

【Aさんの提案例】

来月の遠足のレクリエーション活動では、みんな
でドッジボールをするのが良いと思います。
ドッジボールは、休み時間によくしています。
また、準備がかんたんです。
だから、ドッジボールをするのを提案します。



提案を聞くとき、どのような態度で、どのような聞き方をすれば良いでしょうか。
そして聞いた後、どのような点に注意して助言をすれば良いでしょうか。



教師

ステップ1 共感

- 相手の顔を見て集中して聞く。
- あいづちを打ったり、うなずいたりして聞く。
- 大事なことを落とさないように、必要に応じてメモを取って聞く。
- 相手の立場や状況を理解しながら聞く。
- 相手の良いところを見付けながら聞く。

Aさんの提案の理由は、「休み時間によくしていること」と「準備がかんたんなこと」の2つを取り上げているなあ。

Aさんは、はじめに「ドッジボールをするのが良い」という自分の考えをはっきりと述べていて分かりやすいわ。最後に繰り返しているところも良いわね。

ステップ2 質問

- 分からない点を明確にするために質問をする。
- 相手のもつ情報を確かめるために質問をする。
- 話を聞いて理解したことが正しいのかどうか確認する。
- 相手のもつ情報を整理したり、目的を確認したりする。
- 自分の考えと比べて聞き、相違点について質問をする。

Aさんに質問をするよ。「ほかの遊びは考えなかったの？考えたとしたら、その遊びを選ばなかった理由はどのようなことだったの？」

Aさんに質問があるわ。「『休み時間によくしている』、『準備がかんたん』ということだけれど、はっきりと言い切れるのかしら？」

ステップ3 助言

- 自分の直接体験（成功例や失敗例）を基に助言をする。
- 収集した知識や情報を基に助言をする。
- 相手もち得ていない観点を基に助言をする。
- 相手の選択の幅を広げるように助言をする。
- 目的を再確認できるように助言をする。

- ... ①
- ... ②
- ... ③
- ... ④
- ... ⑤

ポイント!

助言をする際は、自分の考えを明確にしながら言葉遣いに注意することが大切です。また、自分の意見や提案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるように助言をすることが重要です。



※ 実際の助言(例)を次のページに示す。

課題の見られた問題の概要と結果

… B① 話し手の意図を捉えながら 助言をする 〈レクリエーション活動〉

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 A イ エ

〔第5学年及び第6学年〕 B ウ

B①二 正答率 48.8%

6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する

B①三 正答率 67.3%

川本さんの助言についての説明を書く

学習指導要領に示されている
言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 A ア

■ 【Aさんの提案例】に対するグループでの助言（例） ※下記の①～⑤は **ステップ3 助言** に対応（前ページ参照）

 私は以前レクリエーション活動の提案をしたとき、学級でとったアンケート調査の結果を基に提案したら説得力があったような気がするわ。Aさんもぜひ、調査をしてみてもうかしら。（①に対応）	 晴れたときはドッジボールをしても良いと思うけれど、雨が降ったときはどうするのかしら。天気のこと考えて提案すると良いと思うわ。（③に対応）	 みんなでできる遊びはほかにもいろいろ考えられるけれど、それらと比べてドッジボールが良い理由を提案の中で述べた方が良いね。（④に対応）
 場所についてインターネットで調べてみたけれど、学級みんなでドッジボールができるような広さではないみたいだよ。だから、せまい場所でもできる方法を提案したら良いと思うよ。（②に対応）	 レクリエーション活動の目的は、みんなで楽しく遊ぶことよね。その目的にドッジボールをすることがふさわしいという理由を、提案の中に入れて良いと思うわ。（⑤に対応）	

1つのグループ内で助言をし合っている様子を、他のグループが観察するような場面を設定し、それぞれの助言の仕方について評価し合うように指導することが考えられます。



事例2 資料を用いたプレゼンテーションを聞いて助言をする

■ プレゼンテーションの練習を行う際にも、助言をする場面を設定することができる。



プレゼンテーションとは、自分の意見や計画したことなどを提示しながら発表することです。資料を配ったり映像を見せたりするなど発表の仕方を工夫し、相手に分かりやすく伝えることが大切です。



【説明や報告の仕方についての助言（例）】

資料



アンケート調査の資料だけど、賛成意見ばかり取り上げるのではなくて、反対意見も資料として用意しておいた方が良いと思うわ。

話し方



話すときにはなるべくメモを見ないで、聞く人の方を見るようにした方が良いね。また、みんなに考えてほしいところでは、質問を投げかけて反応をうかがうようにしてはどうか。

【説明や報告の内容や構成についての助言（例）】

内容



説明の中で、〇〇についての解説を入れると聞く人の理解をもっと深められると思うわ。また、□□という言葉は難しいので、分かりやすい別の言葉に言い換えた方が良いと思うわ。

構成



はじめに自分の意見をはっきりと述べていてとても分かりやすかったけれど、理由は1つだけではなくて、2つ、3つ挙げて説明するようにしてはどうか。

本授業アイデア例 活用のポイント

- 助言をする際は、「共感」、「質問」、「助言」の3つのステップを踏まえることが重要です。本授業アイデア例は、各教科等の学習や実生活の場面で活用することができます。具体的には、「A 話すこと・聞くこと」の単元の終末部における発表の前段階や、「B 書くこと」の単元における文章の推敲の段階などで互いに助言をし合う機会を設けることができます。さらに、学級活動や委員会活動などの特別活動における話合いの場面においても活用することができます。